

「感じ」「動き」「かわる」…子どもも学校も、さらに一步前へ！



さくらの学校だより

平戸市立田平東小学校 学校だより 令和8年5月25日 文責：校長 森川 稔

自分の目で見る・実際に体験する

便利な時代となり、教科書やインターネットから多くの情報を簡単に得られるようになりました。その一方で、実際に現場で見たり、感じたり、体験したりする学びには、子どもたちの心を動かし、理解を深める大きな力があります。

運動会後の5年生は、総合的な学習と社会科と関連させながら米作りを実際に体験する計画を立てています。米作りの手順は、教科書をもとに学ぶことはできますが、今回は実際に農業を営まれている保護者の方をゲストティーチャーとしてお迎えし、粳まきのご指導をいただきました。育った苗を手作業で植える田植え体験ではなく、自分たちで苗を育て、それを植えて、お世話をして収穫するという一連の流れを体験することで、米作りの大変さや機械化の効率性などについて学びを深めることにつながります。今後は育った苗で6月に田植えをする予定です。



3年生は、社会科で「わたしたちのまちと市」について学習しています。教科書には横浜市の様子が紹介されています。まちの大きさの規模は違いますが、教科書の内容をもとに平戸市や田平町に置き換えて自分たちの住んでいるまちや市について理解を深めることが大切です。その第一歩として、学校周辺に実際に出向き、授業の中で学習した方位（八方位）や地図記号を確かめるための校外学習を行いました。



ふだん何気なく通っている道も、社会科の視点で見つめてみると、「あ、郵便局だ」「お寺もある」など、いろいろなことに気づきました。担任の先生が準備していた地図記号を拡大したカードについてクイズ形式で答えたり、「なぜお寺や神社は高い位置にあるのだろう？」という問いかけを通して、地域の地形や昔の人々の暮らしについて考えたりしていました。

また見学中には校区内を走る松浦鉄道の列車が2回も走り、「来た！」「見えた！」と大喜び。地域を走る鉄道を間近で見ることができました。

この校外学習を通して、単なる知識としてだけでなく、実際に自分の目で見て確かめることで理解を深めていました。

同時に交通ルールを守る、地域の方への気持ちのいいあいさつなど、社会的なルールやマナーの学習にもつながっています。



2年生も生活科で「まちたんけん」に行きました。学校周辺の運送会社や精肉加工会社、郵便局、警察官駐在所に行き、仕事の内容についてお話を聞いたり質問したりしました。登下校中や車の中から見たことはあっても、実際にどんなお仕事をされているのか、

どんな施設や設備があるのかということまではわからなかった子がほとんどで、ワークシートに一生懸命メモをとっていました。

どこも新鮮な学びにつながるものばかりでしたが、精肉加工会社での見学で印象に残った場面がありました。地域ではイノシシが農作物に被害を与えることも多く、その命を無駄にしないために加工し、食材として活用する「ジビエ」の取組について学びました。見学では、加工された肉だけでなく、実際に解体途中のイノシシの姿も目にしました。普段、焼き肉や唐揚げなどで親しんでいる「お肉」との違いに驚き、大泣きする子もいました。しかし、それは子どもたちが「命」を強く感じたからこそその姿だったのだと思います。

ふだん、店頭に並ぶ肉はきれいに加工されており、その向こうにある命を意識する機会は多くありません。今回の見学を通して、私たちは生き物の大切な命をいただいて生きていること、そして食に関わる多くの方々の努力によって日々の食卓が支えられていることを、子どもたちなりに感じ取ることができました。実際に見て、聞いて、感じる校外学習ならではの、とても大切な学びとなりました。



家庭訪問、ありがとうございました！

先週3日間にかけて行った家庭訪問ですが、各ご家庭におかれましては、ご都合を調整し、時間をつくっていただきありがとうございました。昨年度からご自宅の場所の確認と玄関先での短時間での訪問にしましたが、ご家庭や学校でのお子さんの様子や学校経営、学級づくりにおいてのご意見やご質問などをお聞かせいただきました。お話しさせていただいた内容については、今後の学級経営に活かしていきたいと思えます。

時間の都合などで家庭訪問時に話題にできなかったことや、何かご不安なことやご意見、ご相談等がありましたら、いつでも学校や担任にご連絡ください。

読み語りスタート

先号で「はじまりの会」の様子をご紹介しましたが、先週より読み語りボランティア「東風」のみなさんによる読み語りが始まりました。低・中・高の各教室で楽しいお話を読んでもらうと、子どもたちもすごく集中してお話の世界に入っていました。読み語りの最後には、お礼のあいさつに加えて感想を述べている学年もありました。自分の思いを言葉で表すことはとても大切なことだと思いますし、今後はただ「楽しかった、おもしろかった」「読み方が上手だった」などから、お話の内容について詳しく話ができるようになっていくと聞き力、話す力の向上にもつながります。

東風のみなさんだけでなく、先週は、平戸市図書館の方々の「すみずみ支援」でも低学年の子どもたちに本や紙芝居の読み語りをしていただきました。次回も楽しみです。



田平東小HPはこちらから→

